

大正九年工事ニ着手スルヤ、専業圓滑ニ進捗シ、給、排水路ノ構築、改修、貯水池施設亦順調ニ進ミツ、アリシガ、同十二年九月一日ノ關東大震災ハ、財界ニ大打撃ヲ與ヘ、恣イテ組合専業資金ノ調達ニ支障ヲ與シ、據定ノ工程ヲ進ムルコト不能ニ陥リタルヲ以テ、工事期間ヲ四箇年延長シテ、十箇年繼續専業トシ、大正十八年度（昭和四年度）迄ニ完成ス可ク改訂シ、銳意専業ノ進行ニ努メタル結果、大正十三年度ヨリ昭和二年度ノ間ニ於テ、濁水溪ヲ水源トスル北港溪以北ノ區域五二、〇〇〇甲ニ對スル諸般ノ給、排水施設ヲ完了シ、完成部分ヨリ試験的ニ濁水シ、一方菅文溪ヲ水源トスル北港溪以南區域九八、〇〇〇甲ニ對スル諸施設モ遂次完成シ、昭和五年三月本州主要橋梁物ト一タル、官田換貯水池施設ノ竣工ヲ俾尾トシテ本州ノ新設工事ヲ完成スルニ至レリ。

第三節 計畫當初ニ於ケル灌漑面積及給水

一、灌漑面積

本別計盤當初ニ於ケル灌溉決定面積ハ、農耕地及農耕地トシテ開墾可能ナル原野、其ノ他ノ土地總面積一七二、四六〇甲ニシテ、其ノ内灌溉可能ナリト認メタル土地ハ一五五、七六一甲ナリシモ、別路其ノ他ノ工學用地トシテ、潰地トナル可キ五、七〇〇餘甲ヲ見込ミ、結局工學完成後ニ於テ、完全ナル灌溉見込總面積ハ一五〇、〇〇〇甲ト見込ミ計盤セラレタリ。

然ルニ工學完成後ニ於テ實地調査ノ結果、實際灌溉可能面積ハ土地高低調査ノ誤謬其ノ他ニ起因シテ一三、七六二甲ヲ減ジ一三六、二三八甲トナレリ。

4 計盤當初灌溉決定面積

土地種目別、區域内土地總面積及灌溉可能見込面積

土地種目別	面積	灌溉可能見込面積	備考
田	31,330 甲	31,330 甲	
畑	11,240 甲	11,240 甲	
養蠶地	10,210 甲	8,730 甲	
原野 其他	1,231 甲	1,231 甲	
計	54,011 甲	52,531 甲	
		2,480 甲	加除及其ノ他工學用地充當見込地
		50,051 甲	灌溉可能見込地
		11,000 甲	可キ土地

B 工學完成後ニ於ケル灌溉可能面積

工學完成後ニ於ケル實際灌溉可能面積一覽表（昭和六年度現在）

新	永	康	郡別 街庄別	當初ニ於ケル灌溉可能見込面積	實際灌溉可能面積				
					民有地	民有地計	官有地	合計	
					特別水租賦課地	同	同上保留地(A)	同上保留地(B)	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	
					1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	1,231 甲	

(1) 水稲作灌漑面積

年次	三年輪作地		特種區域		備考
	北港溪以北	北港溪以南	北港溪以北	北港溪以南	
大正一三年	四六六	—	—	—	北港溪以北ハ十三年ヨリ昭和四年迄試験的ニ湖水シタルモノニシテ、實際ニ灌漑開始セルハ昭和五年以降ナリ
一四年	一三六四	—	—	—	
一五年	一六八三	—	—	—	
昭和二年	一八二六	—	—	—	
三年	四九三九	—	—	—	
四年	六六一八	—	—	—	
五年	九〇二六	—	—	—	
六年	九三二六	—	—	—	
七年	一〇三三七	—	—	—	
八年	一三六〇二	—	—	—	
九年	一三四五七	—	—	—	
計	四六六	—	—	—	

(2) 甘蔗作灌漑面積

年次	北港溪以北	北港溪以南	計	摘要
昭和五年	六〇三	四六六	一〇六九	北港溪以北ハ大正十三年ヨリ昭和四年迄小部ニ付試験的ニ灌漑ヲ實施シタルハ昭和五年以降ナリ
六年	三三六	六三六	九七二	
七年	一〇〇六	一八八三	二八八九	
八年	六六三	一三三〇	一九九三	
九年	九七六	一五二二〇	一六一九六	
計	—	—	—	

(3) 上掲改良果ノ生産額調査

年次	北港溪以北	北港溪以南	計	備考
昭和五年	—	—	—	昭和五年ハ試験的ニ灌漑セルモノ積不詳
六年	—	—	—	

七年	三三六	一三三二	一六一七
八年	三三〇	一三三三	一三三三
九年	三三一	一三三八	一三三九

二、給水方法或給水費

(一)給水計畫

本州ノ給水方法ハ他ノ一般埠頭ト著シク其ノ趣ヲ異ニシ、限リアル水量ヲ以テ、廣ク水利ヲ考テセシメ農業經濟上最モ理想的價値アラシメムコトヲ觀セムガ爲、三年輪作式給水方法ヲ採リタルモノナリ。

「三年輪作式給水方法」本方法ハ全縣區域一五〇、〇〇〇甲ヲ分テ、一五〇甲ヲ以テ給水一單位區域トシ、更ニ之ヲ「夏季單期水給作區」「計獲作區」「雜作區」ニ分テ、每區五十甲宛三小區ニ分テ、水給、甘藷作區、毎年獲澆的ニ作物ヲ耕作シ、各其ノ必要程度ノ水量ヲ給水スルモノニシテ、雜作區ハ無給水區トナスモノナリ。

(二)灌溉系統

全縣域一五〇、〇〇〇甲ノ中、北港溪以北ノ六、鹿島、北港ノ三郡下五二、三七九甲、濁水溪ヨリ、北港溪以南ノ嘉慶、東石、新營、會文、北門、新化、新豐ノ七郡下九七、六二一甲ハ貯水池ヨリ給水スルモノトス。但シ濁水幹線中北港溪支線ニ屬スル約一三、〇〇〇甲ニ於ケル水給舊代(五月)及甘藷作(十月ヨリ一月迄)ニハ貯水池系ヨリ、又貯水池系ニ屬スル「中營子」及「東石支線」管内七、〇〇〇甲ニ於ケル水給作(本田給水期間)ニ對シテハ濁水溪系ヨリ、各々其ノ餘水ヲ以テ交互ニ灌溉灌溉スルモノナリ。

(三)給水時期

水給作...五月ヨリ十月迄(五月舊代、六月舊代、十月刈取)

(北港溪以北)

甘藷作...九月ヨリ翌二月迄(十一月舊代、種付翌年十一月ヨリ翌々年四月迄) 刈取...

早稻...九月ヨリ十二月迄ニ大體ノ種付ヲ了シ、刈取時節ハ大體北港溪以南ニ同シ

(北港溪以南)

I 水稻作...六月ヨリ九月末迄 (六月由代、七月種付、(種付)日數二十日間)、十月刈取)

II 甘蔗作...十一月ヨリ翌年四月迄 (十一月ヨリ種付、翌年十一月ヨリ刈取、始メ翌々年四月迄刈取スモノトス)

給水時期ハ以上ノ如クナルモ、各給水區劃ニ於ケル分應水量及時期ニ關シテハ土地ノ狀況、氣候其ノ他ノ關係ヲ考慮シ、管理者ニ於テ之ヲ定メ實施スル計畫ナリ。

(一)現在ノ給水方法

(A)三年輪作地區給水

現在行ヒツツアル給水方法ハ以上述ベタル給水計畫ヲ基調トシテ、實際ノ狀況ニ應ジ多少ノ便宜的處置ヲ講ジツ、アリ

即チ(一)水稻作給水 (二)甘蔗作給水 (三)土地改良給水ノ三種ニシテ、水稻及甘蔗作給水ハ、水稻及甘蔗作區内ニ於テ各其ノ所定作物ヲ實際ニ作付シタルモノニ對シテノ給水スルモノニシテ、各作物區ノ全體ニ亘リ、作物ノ如何ニ係ラズ給水スルモノニ非ザルヲ以テ之等水稻及甘

蔗作區ニ於ケル當該作物ノ栽培ニ要スル給水割合ハ現在約七〇%ニ過ギズ、從テ當然給水料ニ酥裕ヲ生ズルガ故ニ、此ノ餘剰水量ノ利用策トシテ實行スルモノ即チ土地改良給水ナリ。

(B)土地改良給水

本給水ハ甘蔗作區ニ屬スルモノニシテ、實際耕地ノ狀態、甘蔗種付不可能ナルモノニ對シ、特ニ給水ヲ行ヒ或ハ一部強度ノ鹽分含有地ノ鹽抜工作方法トシテ、數箇年間水稻連作ヲ許可シ「特殊區域」ニ編入シテ還原灌漑ヲ爲シ、以テ餘剰水量利用上ノ合理化ト相俟テ土壤ノ改良ヲ企圖セムトスルモノナリ。

(C)給水量

本圳ノ計畫給水量ハ前述セル如ク灌漑見込一五万甲全部ニ對シ、三年輪作式ヲ根據トシテ計畫セルモノニシテ、之ヲ水線ノ系統別ニ表示スレバ左ノ如シ

▲貯水池系 (北港溪以南、官田、柴野水池ヲ水源トシ、給水路) 南北兩幹線系統ニ屬スル區域

(1) 水稻作

給水量

(百一億八千八百立方尺)

百代		本田	
播種時	耕地面水深 五寸	代播時	耕地面水深 五寸
播種時	一ヶ月ニ付一寸強五回 五寸	代播時	耕地面水深 五寸
給水後	計一尺ヲ給水シ、降雨量ハ考慮セズ	給水後	新地回水深最低二寸ヲ保持スル程度ノ給水ヲナス
		本田月別給水量ハ七月一尺一寸二分六厘、八月三寸八分、九月五寸五厘、計二尺一分一厘ヲ要スル計算ナリ	

(2) 甘蔗作

給水量

(五十二億二千立方尺)

植付期間	
十一月ヨリ	翌年四月迄
植付時	耕地面給水深 三寸
植付後	二寸強三回六寸給水ス

日濁水幹線

北港以南濁水溪ヲ水源トシ、給水幹線ヲ北港以南濁水溪ニ屬スル區域

(1) 水稻作

給水量

百代及一部本田代播用 (三月半)		本田	
必要水量全部ヲ供給ス	所要取入水量 (一日四〇〇個)	本田	自六月 至十月
		動機給水後ハ耕地消失量ニ相當スル給水量	
		一、降雨量ヲ見込マズ	
		二、日ノ耕地面積ヲ見込マズ	
		三、係上其ノ邊境量ヲ北港以南ヨリ大キク	
		見込タリト見込此ノ所要取入水量 (一日一、四五五個)	

(2) 甘蔗作

給水量

植付期間	
九月ヨリ	十二月迄
植付時	耕地面水深 三寸
植付後	一ヶ月二寸強、翌年一月迄給水ス

以上本州ニ依リ實際灌溉ヲ爲スニ當リテハ、毎年初メニ於テ、其ノ年ノ灌溉面積、土質等ヲ考慮シ、一箇年間ノ灌溉計畫ヲ構テ、更ニ各監理所ラシテ區域内ノ翌月所要給水量ヲ上、中、下旬ニ分チ、調査報告セシメ組合本部ニ於テ査定シ、一箇月ノ灌溉計畫ヲ定メ、之ヲ基礎トシ更ニ降雨量等ノ他ノ事項ヲ隨時報告セシメ、以テ實際ノ給水量ヲ調節スルモノナリ。

各地區別必要給水割合

本州灌溉區域内ヲ會文溪以南、會文溪急水溪間、急水溪八草溪間、八草溪北港溪間及北港溪以北ノ五區ニ分チ及其ノ耕地面積及土性ニ依リ所必要給水割合ヲ表示スルベシト知シ。

土性別耕地面積

(昭和五年七月臺南大圳組合編)

區別	第一區	第二區	第
地區名	會文溪以南	會文溪急水溪間	本急
給水支線名	東勢寮支線 北勢寮支線 善化支線 南勢支線 計	麻豆支線	烏山頭支線 六甲支線 吳厝後支線
土性	埴土 礫土 砂土 計	埴土 礫土 砂土 計	埴土
面積	6000 2100 2000 1000	2000 1800 1200 5000	11000
一甲區必要給水量割合	0.22 0.18 0.15 0.15	0.22 0.20 0.15 0.15	0.15
同上ニ依リ埴土換算面積	13200 4200 3000 15000	4400 3600 1800 9800	23000
送水割合	1.11	1.0	

區 三		區 四				
閩 溪 寧 八 溪		溪 港 北 溪 寧 八				
查 畝 營 支 線	六 脚 腿 支 線	吉 長 晏 支 線	新 營 支 線	下 茄 文 支 線	青 寮 支 線	關 埭 支 線
計	計	計	計	計	計	
樓 土	樓 土	砂 土	樓 土	樓 土	樓 土	
22200	22200	10000	22200	17800	22200	
100	100	100	100	100	100	
22200	22200	10000	22200	17800	22200	
一 四						

區 五 第		區 四			
閩 溪 北 以		溪 港 北 以			
東 石 支 線	東 石 支 線	樓 土	樓 土	樓 土	樓 土
計	計	計	計	計	計
樓 土	樓 土	樓 土	樓 土	樓 土	樓 土
22200	22200	22200	22200	22200	22200
100	100	100	100	100	100
22200	22200	22200	22200	22200	22200
一 四					